

令和7年10月10日

人吉市議会議長 宮原 将志 様

厚生委員会委員長 池田 芳隆

「市民と議会の意見交換会」実施報告書

このことについて、「市民と議会の意見交換会」を実施しましたので、人吉市議会「市民と議会の意見交換会」実施要綱第8条第1項の規定により提出します。

開催日時	令和7年8月25日（月）午後7時～午後8時
会 場	人吉市医師会館 会議室
出席議員	【委員長】 池田芳隆（統括） 【副委員長】 井上光浩 【委 員】 福屋法晴（司会者） 、徳川禎郁（記録者）
団体名	一般社団法人 人吉市医師会
参加人数	3名
テーマ	人吉球磨准看護学院を取り巻く状況について
意見交換会の概要	【医師会の出席者】 医師会会長・友永和宏氏（豊永耳鼻科医院院長） 医師会副会長・高橋耕一氏（たかはし小児科内科医院院長） 人吉球磨准看護学院学院長・田中洋一氏（田中医院院長） ○人吉市医師会会長及び厚生委員長挨拶 ・人吉市医師会会長 友永和宏氏 ・厚生委員会委員長 池田芳隆 ○出席者紹介 ○意見交換 《人吉球磨准看護学院学院長から》 ◇学院の現況、経営状況、全国の補助金の状況について

《学院の現況》

- 入学生のうち、他圏域からの入学生が毎年 2～3 名
 - ・令和 6 年度入学生：24 名
 - ・令和 7 年度入学生：18 名※県内初の外国人(ベトナム)入学生有
- 県内初の取組として、令和 6 年度より双方向型のリモート授業の発信校として稼働している。

《経営状況》

〔支出〕 年間 3,300 万円～3,500 万円（うち人件費が 80%）

〔補助金〕 県補助金、市町村補助金、日医補助金の合計 1,000 万円、生徒年間授業料 1,200 万円（2 学年 40 名の場合）

〔医師会からの助成〕 不足分の 1,300 万円～1,500 万円程度を助成

- 少子化による生徒数の減少が厳しい現状である。

《人吉球磨地域における人吉准看護学院の存在意義》

以下の観点から説明を受けた。

- リスキングや地元学生の受け皿として、キャリアハブ的観点から
- 「日本一の医療介護都市人吉」→医師会アンケート結果から
- 政策の中の准看護学院の現況。過疎化対策等の観点から
- 被災施設として。HP シェル構造を有する麗美な建造物として。

《今後の学院発展的展望に必要なこと》

以下のような課題、意見、要望等について説明があった。

- 医療機関は 2012 年をピーク年々減少しており、看護師数の減少も止まらない現状である。
- 准看護師は協会がなく、准看護師の退職等の把握ができていない。准看護師の資格を持っているが職に就いていない方が多い。
- 全国でも珍しい取組である人吉高校定時制普通科との連携について、キャリアハブの中の准看護学院の位置付けをアピールしていくことの重要性。
- 社会人が入学しやすいシステムである。
- 人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプランで医療面のアプローチをしてほしい。
- 人吉球磨准看護学院の魅力のひとつとして、1968 年野中卓士により設計され完成した校舎は、HP シェル構造（双曲放物面構造）を用いて造られており、礼拝堂か宮殿の中にあるように証

	されたシンボリックな建物となっている。そこに、夏目友人帳の影絵のライトアップができないか。 ● 若者が残り・集う・産業・雇用の創出として、若者が定着・環流する環境の創造の中に医療産業も入れるべきではないか。 ● この地域の過疎化を防ぐ為にも、住み良さ日本一になった医療産業が人吉市にはある。医療業界は受け皿がきちんとあるので、住みやすさがあることを利用すべき。10市町村で協力して発信してほしい。 ● この先、地域の教育機関に対しての取組は金銭面的補助もさることながら、行政と医師会の密接な連携の上で積極的な姿勢での取組や情報発信による取組が非常に重要と考えられる。 ● 「日本一の医療介護都市人吉」として、医療面から人吉地域のブランディングを進め「老後は人吉球磨で」「看護を学ぶなら人吉球磨で」のスローガンを元に若者の流出を防ぎ人口流入に寄与する魅力的な教育機関を目指す。 ○閉会 最後に井上副委員長から、「内容は持ち帰り、議員間にも広く知らしめて協議を進めて参りたい。今後も意見交換をさせていただきたい。」との閉会のあいさつがあり、意見交換会を継続していくことを確認し、閉会した。
--	--